

美と感動に出会う美術館

平成17年度の特徴について

| | | | |
|--------------------|--|--------|---|
| 所在地 | 福井市文京3丁目16-1 | | |
| 設置年月日 | 昭和52年10月1日 | | |
| 施設の種類 | 美術館 | 施設管理主体 | 県 |
| 設置の目的 | 美術に関する県民の知識および教養の向上を図り、もって県民の文化の発展に寄与する。 | | |
| 概要 (構造、面積、主な機能) | 鉄筋コンクリート造、地上2階、地下1階、延6,627㎡ 駐車場127台、貸展示室、研修室、会議室、講堂 | | |
| 職員数 | 職員8人 非常勤嘱託2人 事務補助員1人 アルバイト4人 計15人 | | |

| | |
|------|--|
| 事業実績 | <ul style="list-style-type: none"> 企画展を年間5回開催し、28,694人が来館しました。 「無言館 - 遺された絵画展」(4/29~5/29 入館者数6,654人) 「紙わざの世界展」(8/13~8/28 6,839人) 「小野光太郎コレクション展」(8/13~8/28 9,337人) 「ベルギー象徴派展」(9/9~10/10 3,001人) 「あい囀回顧展」(3/1~3/30 2,863人) |
| | <ul style="list-style-type: none"> 館蔵品によるテーマ展(常設展)を年間5回開催し、13,131人が来館しました。また、福井新聞社、日刊県民福井との共催展で39,221人が来館しました。 移動美術館を3回開催しました。(小浜市2回、敦賀市1回) |
| | <ul style="list-style-type: none"> 美術愛好家や各種団体の主催する展覧会を美術館の展示室等を利用して、年間68回開催し、69,127人が来館しました。 日本画、洋画、彫刻の3部門で、実技講座として基礎講座各10回、専門講座各25回実施しました。 |

利用状況等

| | H15 | H16 | H17 |
|---------|---------|---------|---------|
| 利用者数(人) | 144,163 | 150,817 | 140,418 |

利用者負担(利用料金)等

| | | |
|------------|------|---------|
| 観覧料 使用料 | 常設展 | 100円 |
| | 企画展 | 美術館HP参照 |
| | 展示室等 | 美術館HP参照 |

マスコミとの連携

年間を通して数多くの展覧会を開いており(平成17年度例:企画展5回、テーマ展5回、その他の主催・共催展9回、貸館事業68回)、その都度マスコミに情報を提供し、PRに努めています。
 また、マスコミとの共催展や実行委員会による展覧会の開催など、展覧会の開催についてもマスコミと連携してきました。(例:平成17年度に開催された2展のうち、「第36回日展福井展」は福井新聞と共催、「第90回院展福井展」は日刊県民福井と共催。)

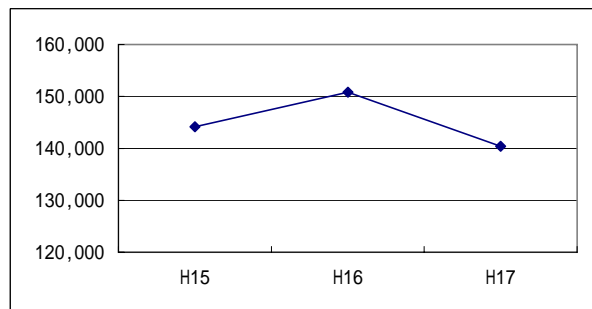
資料収集

平成17年度は、曾我紹仙作『寒山拾得図』、岩佐勝重作『歌仙図押絵貼屏風』、岡不崩作『山水図』、山田鬼斎作『鷺』、マルク・シャガール作『サン・ポールのあけぼの』、岡倉天心書簡等3通、岡倉天心著『茶の本』、『東洋の理想』、『日本の覚醒』(各初版本)の計11点を購入し、5点の寄贈と57点の寄託を受けました。

研究成果

職員がこれまでの研究の成果として、以下の展覧会開催や論文発表を行いました。

- 『あい囀AY-O回顧 1950-2006』展の企画・監修を行い、宮崎県立美術館へ巡回させました。
- 第20回国民文化祭ふくい2005で、福井市が開催した美術展の企画委員を務めました。
- 第20回国民文化祭ふくい2005で、坂井市(旧三国町)が開催した現代美術展の審査委員を務め、シンポジウムのパネラーも務めました。
- ふくいカルチャーセンターが開催する全国規模の公募展『FUKUI サムホール美術展』の審査委員を務めました。
- げんでんふるさと大賞写真コンテストの審査委員を務めました。
- 論文『あい囀と福井』 『美浜町史美術・工芸編』
- その他館蔵品の研究成果をテーマ展解説の中で行いました。



| | |
|---------|---|
| 利用状況の推移 | 平成16年度は、企画展「ピカソ、マティスと20世紀の画家たち展」および「北斎展」が好評で約24千人の来館があり、年間入館者数は対前年度比4.6%増の150,817人となりました。 |
| | 平成17年度は、企画展「無言館 - 遺された絵画展」および「紙わざの世界展」等が好評でしたが、企画展、テーマ展全体では入館者数が減少し、年間入館者数は対前年度比6.9%減の140,418人となりました。 |

福井県立美術館(2/2)

行政コスト計算書(平成17年度)

(単位 千円)

| | | 総額 | 構成比 | 前年比 |
|----------|-----------|---------|--------|--------|
| 人にかかるコスト | 人件費 | 87,938 | 35.2% | 109.5% |
| | 退職給与引当金繰入 | 8,100 | 3.3% | - |
| | 計 | 96,038 | 38.5% | 136.8% |
| 物にかかるコスト | 物件費 | 102,921 | 41.3% | 105.9% |
| | 維持補修費 | 7,667 | 3.1% | 58.8% |
| | 減価償却費 | 38,109 | 15.3% | 100.0% |
| | 計 | 148,697 | 59.7% | 100.2% |
| その他 | 公債費(利子) | 0 | 0.0% | - |
| | その他 | 4,486 | 1.8% | 118.1% |
| | 計 | 4,486 | 1.8% | 118.1% |
| 合計 | | 249,221 | 100.0% | 112.1% |

バランスシート(平成18年3月31日現在)

(単位 千円)

| 借方 | | 貸方 | |
|--------|-----------|------|-----------|
| 資産 | | 負債 | |
| 有形固定資産 | 5,155,726 | 固定負債 | 63,120 |
| 投資等 | 0 | 流動負債 | 0 |
| 流動資産 | 0 | 正味資産 | 5,092,606 |
| 計 | 5,155,726 | 計 | 5,155,726 |



施設の特徴

- ・館藏品によるテーマ展や企画展の開催のほか、美術愛好家のグループや団体の展覧会が年間約90回開催されています。また、実技講座の開催など教育普及活動にも取り組んでおり、総合型の美術館として機能しています。
- ・嶺南地域で、移動美術館を年3回開催しています。
- ・作品解説、受付、監視など様々な面でボランティアが活動し、県民サービスの向上に貢献しています。

今後の課題

- ・リピーターの来館者が多く、新規層の開拓が必要です。

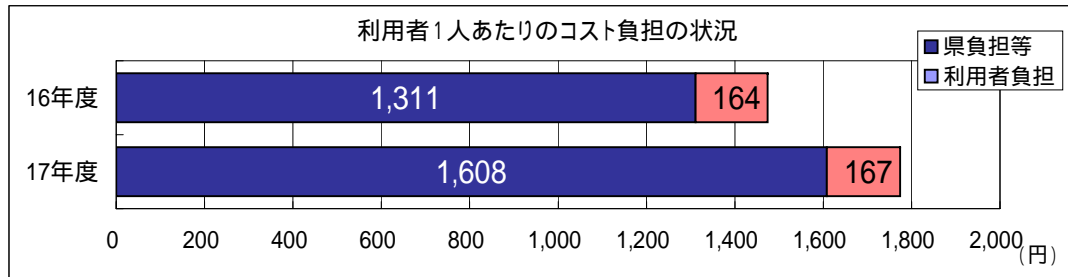
(単位 千円)

| 収入 | | | | (前年比) |
|----|--------|---------|-------|--------|
| 収入 | 利用料等収入 | 23,421 | 9.4% | 94.5% |
| | その他収入 | 4,278 | 1.7% | 101.0% |
| | 一般財源 | 221,522 | 88.9% | 114.6% |

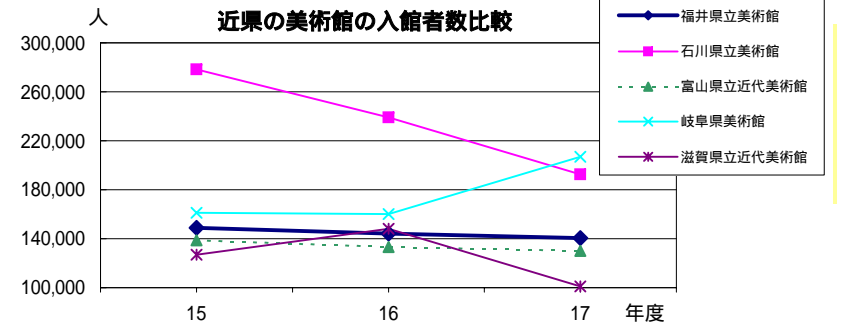
(前年比)

| | | |
|---------------|--------------|--------|
| 利用料等収入計 | 23,421,000 円 | 94.5% |
| 利用者1人あたり平均利用料 | 167 円 | 101.8% |
| 利用者1人あたりコスト | 1,775 円 | 120.3% |

利用者1人あたりのコスト負担の状況



近県の美術館の入館者数比較



バランスシート、行政コスト計算書の特徴

- ・施設の設置が昭和52年と古く、減価償却費の割合が低くなっています。
- ・有形固定資産のうち、建物が965,842千円と全体の18.7%を占めています。
- ・有形固定資産には、美術品3,546,330千円含み、全体の68.8%を占めています。

今後の事業方針、取り組み内容

平成17年度の利用者数は減少しましたが、今後は以下の取組みにより、利用者増を図ります。

生徒児童向けの展覧会では、県内全児童生徒にチラシを配り、来館を宣伝します。

JR西日本と連携し、JR関係の広報を強化します。

福井県博物館協議会公式サイト開設による広報を実施します。「ふくいミュージアム・スクエア」



福井県立美術館